46 Kishiwada-jyo Castle Period 1953 Osaka Pref. Kishiwadajyomachi 9-1 Tel:0724-31-3251

広大な空間を一つのテーマでまとめきるのは至難の業であるが、試行錯誤の末たどり着いたのが「八陣の庭」であった。八つの陣ともそれぞれの陣を象徴した独立の構造を組まれているが、一方中央の大将陣や関連している。全く新しいタイプの日本庭園と云える。

特長を項目ごとに記す

①「八陣の庭」のテーマの選択により統合と分散が図られる。即ち広い庭で、八陣は分散した造形であるが、相互関係性があり、かつ大将陣に統合されており造形に破綻が無い。

②ヨーロッパ抽象主義の造形を伝統的な日本庭園の地割に取り込んだ本格的な庭である。即ち従来の日本庭園にはなかった屈曲線が独創的な造形を示す。これは重森が傾倒していたカンデンスキーやマチスの影響と思う。

③連続的に変化する立体造形は他に類例がない。園路を回りながら、手前の陣と奥に見える大将陣を組み合わせて鑑賞すると、石組の造形はまるで万華鏡をみているように連続的に変化する。このような多視点鑑賞の庭は唯一無二。

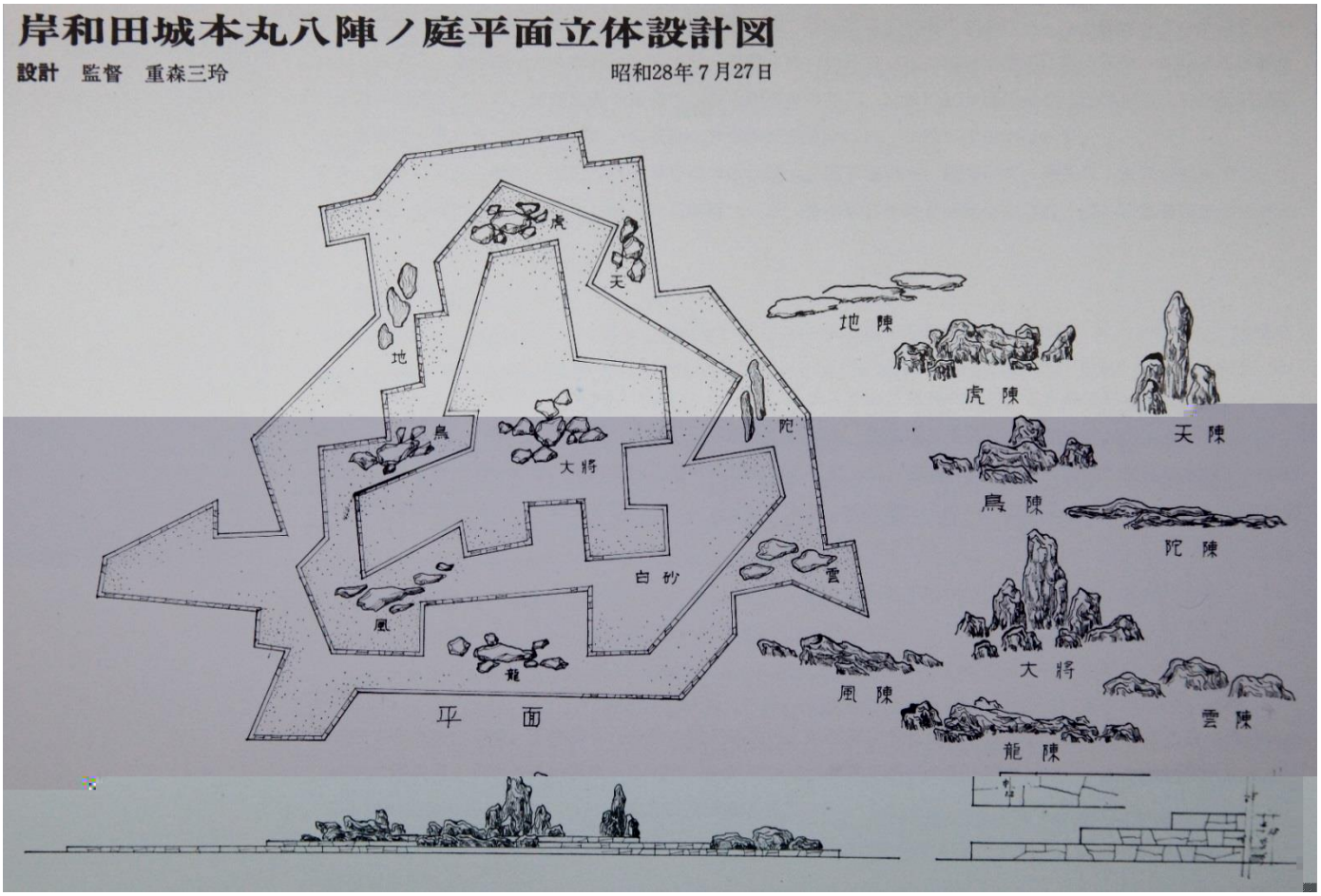
このような独創的な平面造形は龍安寺以来絶えて出現しなかった。しかし500年後に現代枯山水庭園として蘇った。各基壇の屈曲凹凸の線は段ごとに接近したり離れたりで並行線、菱形線、三角線をなして、多様な変化とリズムを生んでいる。

八陣の名は、中国の諸葛孔明の陣構えからとったものである。石組は大将陣を中心として、周りに天・地・風・雲・鳥・蛇・龍・虎の各陣を配し、象徴的に布石している。各陣のある基壇は約30ｃｍの高さで3段に構えている。

鳥陣越しに大将陣を望むと、圧倒的な立体造形が出現する

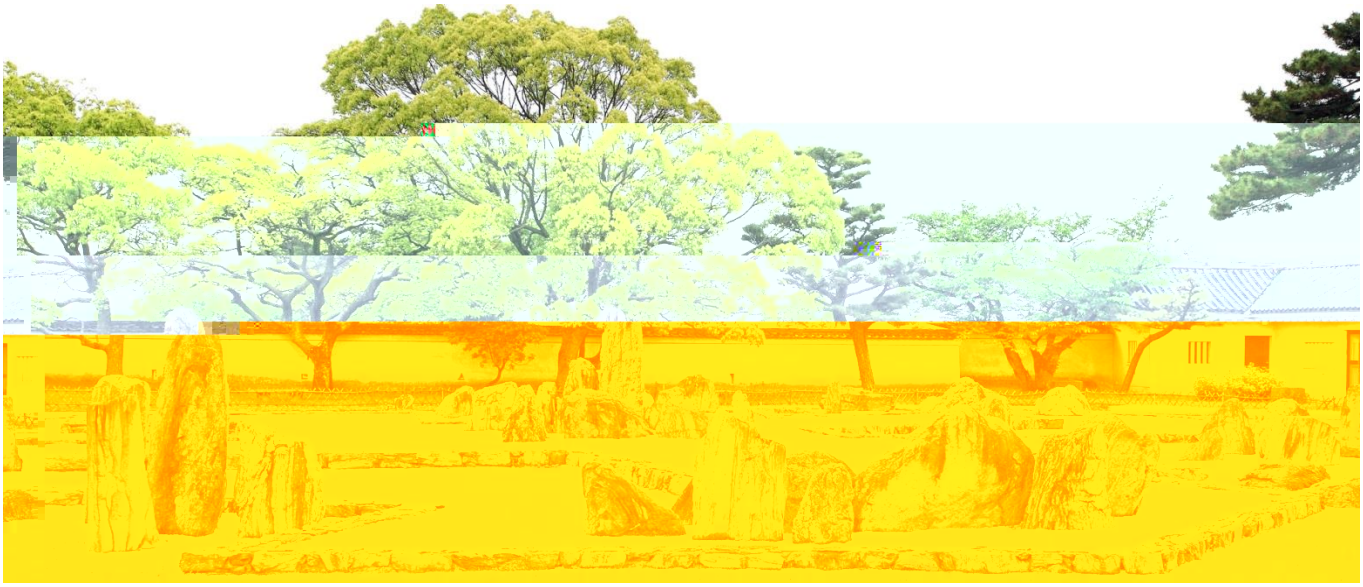
[redacted]

立体造形と平面造形の融合した唯一無二の庭である


岸和田城本丸八陣ノ庭平面立体設計図
設計　監督　重森三玲
昭和28年7月27日
虎
天
地
鳥
大將
陀
白砂
雲
風
龍
平面
地陳
虎陳
天陳
鳥陳
陀陳
大將
風陳
雲陳
龍陳

[redacted]

抽象化されたデザイン



層を成す石組み群

天守閣にマッチしたテーマの庭